



シニアコース 1年生

コース生の募集は終了しています

◆総合学習 後期 ～シニアライフを充実させるために～ ※シニアコース1年生 必修講座です。

主 題 シニアコースは 60 歳以上の中央区在住の方を対象としたコースです。

シニア世代にとっての生涯学習という観点から、地域の歴史や文化・芸術、応急手当など、いろいろなテーマを同じ世代の仲間とともに学びます。

講座番号 シー総

時 間：午後2時30分～4時30分

場 所：築地社会教育会館ほか

※第5回は築地社会教育会館に集合、
築地場外市場で解散

回 数：10回

受講料：2,000円

材料費：1,000円

回数	日程	講 義 内 容	講 師 名
第1回	9/ 9 (火)	【スタートアップコンサート】 体験型クラシックコンサート！ ～音楽を聴いて旅をしよう	村松 裕子 竹中 勇人 伊賀 あゆみ
第2回	9/16 (火)	【ジャンル：救命救急】 命を救う応急手当を知りましょう	小谷 好美
第3回	10/14 (火)	【ジャンル：文学】 中央区と文学～池波正太郎の世界～	鶴松 房治
第4回	10/21 (火)	【ジャンル：食文化】 実演付き講演会 魚河岸と共に生きる	門井 直也
第5回	10/28 (火)	【ジャンル：地域を歩く】 仲卸が案内する築地場外市場	
第6回	11/ 4 (火)	【ジャンル：建築】 歴史的建築物の保存と再生	岸本 章
第7回	11/11 (火)	【ジャンル：産業技術史】 ～非常ノ人 非常ノ事ヲ好ミ 行ヒ是レ非常～ 平賀源内の魅力	鈴木 一義
第8回	11/25 (火)	【ジャンル：新聞学】 メディアの街・中央区 ～近代日本における情報発信の中心地～	石川 徳幸
第9回	12/ 2 (火)	【ジャンル：ボランティア】 幅広いスポーツの楽しみ方 ～支えるスポーツ！スポーツボランティア～	二宮 雅也
第10回	12/ 9 (火)	【ジャンル：伝統芸能】 落語と寄席をどり	十一代目 金原亭 馬生

※各回のタイトル・講師は変更することがあります。

村松 裕子 (むらまつ ゆうこ)

新日本フィルハーモニー交響楽団コントラバス奏者。1997年東京藝術大学卒業。同年PMFフェスティバルに参加。翌年新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。2001年ドイツ・リュベック音楽大学へ入学。現在は、オーケストラ活動に加え、都内の小・中学校での演奏や指導、音楽ワークショップリーダーとして幅広く活躍中。これまでに、故江口朝彦、吉田秀、ヨルグ・リノビツキに師事。

伊賀 あゆみ (いが あゆみ)

ピアニスト、東京音楽大学講師。東京音楽大学卒業、同大学院を首席で修了。英国王立音楽院短期留学。ピティナ・ピアノコンペティションG級と特級で金賞受賞。ソロに加え、アンサンブルピアニストとしてもコンサートや幅広いジャンルのCD録音を多数行う。文化庁による芸術家派遣などで全国120校以上で学校コンサートを行う。山口雅敏とのピアノデュオは「進化系デュオ」と呼ばれ、超絶技巧でアクロバティックな編曲、世界初録音、自編を中心とした3枚のCDをリリースし、2017年にはロシア、ポーランドでもコンサートを行った。

鶴松 房治 (つるまつ ふさはる)

池波正太郎記念文庫指導員、池波正太郎真田太平記館指導員。明治大学演劇学専攻卒業後、劇団新国劇に入団。制作部在籍中に池波正太郎作品の演出助手を務め、その後、私的なアシスタントを生前15年間行う。著書に『池波正太郎が愛した江戸をゆく』（朝日新聞出版）など。

岸本 章 (きしもと あきら)

多摩美術大学教授、岸本章設計所所長、日本民俗建築学会理事。多摩美術大学美術学部建築科卒業後、東京藝術大学大学院美術研究科を経て、1998年より岸本章設計所を開設。建築家として活動しながら、2008年より多摩美術大学美術学部環境デザイン学科教授に就任。主な研究テーマは民家と集落の保存と再生。

石川 徳幸 (いしかわ のりゆき)

日本大学法学部新聞学科教授、日本選挙学会理事。日本大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（政治学）。専門は日本ジャーナリズム史。主著に『言論と政治の関係を考える』（日本経済評論社）や『日露開戦過程におけるメディア言説』（櫻門書房）、共著に『パブリッシング・スタディーズ』（印刷学会出版部）、論文に「史料としての新聞」（『メディア史研究』39号所収）や「デジタル時代の新聞産業とジャーナリズム」（『情報の科学と技術』68巻9号所収）などがある。

竹中 勇人 (たけなか はやと)

新日本フィルハーモニー交響楽団第1バイオリン奏者、東京音楽大学講師。2000年東京音楽大学在学中より入団し、同大学大学院を経て現在に至る。東京音楽大学での室内楽欧州ツアーを行い好評を博す。これまでに、二村英之、中道三代子の各氏に師事。

小谷 好美 (こたに よしみ)

応急手当普及員、杉並区救急協力員。長年にわたり消防署・保健所などで、救急救命講習指導を実施し、その指導に関して大変わかりやすいと高評価を得ている。（公財）日本パラスポーツ協会公認・初級パラスポーツ指導員としても活動中。

門井 直也 (かどい なおや)

築地魚河岸 京富（つきじうおがし きょうとみ）五代目、「築地魚河岸」事業部長。京富は、魚河岸が日本橋にあった江戸時代から現在まで続く老舗の鮮魚専門仲卸。100年以上続く老舗ならではの品揃えと、和食料理人経験もある五代目社長の目利き力が評判。魚料理セミナーや築地まちづくり事業の牽引など、築地の魅力を次世代に伝える活動も精力的におこなっている。

鈴木 一義 (すずき かずよし)

元国立科学博物館産業技術史資料情報センター長。日本における科学及び技術、特に江戸時代から現代にかけての科学技術の発展状況の調査研究を行う。経済産業省ロボット大賞選考委員、江戸東京博物館展示監修委員などを兼任。著書に『見て楽しむ江戸のテクノロジー』（数研出版）、『からくり人形』（学研）他多数。

二宮 雅也 (にのみや まさや)

文教大学教授。筑波大学大学院体育研究科修了。民間シンクタンク研究員、上智大学講師を経て2022年から現職。元東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ボランティア検討会議委員。スポーツ社会学（スポーツとボランティアの関係性）、地域活性論（NPO、ボランティアを中心としたまちづくり）などが専門。著書に『スポーツボランティア読本～支えるスポーツの魅力とは！～』（悠光堂）など。

十一代目 金原亭 馬生 (きんげんてい ばしょう)

落語家、落語協会常任理事。中央区銀座木挽町生まれ。1969年3月に十代目金原亭馬生に入門し、同年9月に小駒を名乗り人形町末廣にて初高座。1987年に真打へ昇進し、1999年9月で名跡・十一代目金原亭馬生を襲名。所属は落語協会。2014年に理事、2024年より常任理事を務める。古典落語、日本舞踊、俳句など幅広い芸域を持ち、芝居噺と言われる噺ができる数少ない正統派噺家の一人。また、江戸時代から明治まで盛んに興行されていた噺家が演じるお芝居「鹿芝居」を現代に復活させた立役者でもある。